

# 高校国語科において、文章構成・表現を主体的に工夫できる生徒の育成

—既習の単元を踏まえた動画作成を通して—

特別研修員 国語 塚越 洋平(高等学校教諭)

理想の  
生徒像

◎文章構成や表現について考え、  
主体的に工夫できる生徒



<手立て1> 既習の単元を読み比べ、  
文章構成や表現の工夫に気付かせる。



伝え方・  
伝わり方  
の違いに  
気付かせ  
るための  
スイッチ  
としての  
役割。

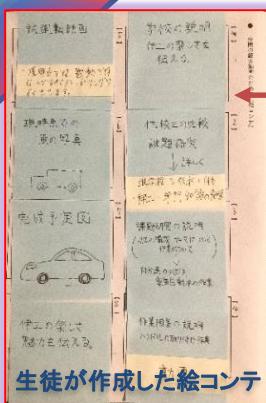
・既習の単元を読み直し、比べさせる。それにより、短時間で文章構成(尾括型・起承転結など)や表現(比較・回想など)の違いに気付くことができる。また、グループで取り組むことで、個人とは違う部分にも関心が向くようになる。



<手立て2> 昔話や工業の授業の紹介動画を作成し、文章構成や表現を自身でも工夫できる力を身に付けさせる。



<グループでの協働>  
個人個人が刺激し合い、  
気付きを促すためのジョイント  
としての役割。



生徒が作成した絵コンテ

「学びに向かう」姿勢を積極的にする電池としての役割。



・紹介動画を作成させる際には、「絵コンテ」によって構成・表現をイメージ化させていくとともに、スマートフォンを活用させることで、学びに向かう姿勢がより積極的になるよう指導していく。

生徒の  
実態

- 目的・状況に応じて、構成・表現を変えられない。
- 受け身であることが多く、表現することが苦手。

## 成果

- ◎「動画」というテキストは、生徒の「学びに向かう」姿勢に対して効果的に作用し、文章構成・表現を理解し、工夫できるようになっていった。
- ◎スマートフォンを活用することで、文章だけにとどまらず、写真やイラストなどを視覚的に受け取ることができ、生徒の理解が深まった。

## 課題

- 「なぜ、その構成・表現を使うのか」が明確ではないものが多数見られた。(例)比較は、結論に関わる形で例を用いるべきであるが、関係のない部分で比較されている等。→「その表現を選んだ理由を分かりやすくする」「どのような時にその表現を使うのかを全体で確認する」といった学習活動等を設定する必要がある。